

休校中に毎日活用！ブログ貼り付けによる学習動画超簡単配信

朝来市立竹田小学校 教諭 國眼 厚志

キーワード：ブログ、動画、スマートフォン

実践の概要

休校中の児童に対し、学びを止めないために2月末よりブログを開設し、学習動画を貼り付けた。新学期になり入学式と同時に緊急事態宣言が発出。1年生を担当し、ひらがなや数字の学習を動画配信し、教科書通りの学習を進めることができた。学習習慣の確立と毎日毎時の連絡により保護者は多くの情報が得られ、担任との絆が深まり、結果スムーズな再登校となった。

1. 実践に向けてのプレ導入

本実践を行う、國眼学級(令和元年度の3年生)において2月27日に行われた首相会見で3月以降の授業ができないことを考え、動画による授業配信を行おうと、まずは学級ブログを立ち上げた。



写真1 そろばん動画の撮影

全家庭にスマートフォン

(以下スマホ)があることは確認済みであったので、ブログのQRコードを次の日の学級だよりに掲載、今後の連絡はブログにより行うことを案内した。同時に3月にする予定であった算数のそろばんの学習について動画を撮影し(写真1)、そのURLをブログ画面に貼り付けることで、どの家庭でも初めて学習するそろばんについて指使いから始めることができた。さらに国語、算数、理科、社会の4教科について課題を出し、その課題の解法や答え合わせも動画により解説することで年度末の家庭学習をスムーズに行うことができた。

2. 1年生ブログの開設

4月になり、入学式前日に緊急事態宣言が発出され、元気いっぱいの1年生が(令和2年度國眼学級は1年生)その後の登校機会を奪われてしまった。入学式前に保護者にスマホの所持を確認し、QRコードを載せた学級だよりを配布。今後の学習はブログに動画を貼り付けて行うことを知らせた。保護者たちは戸惑いながらも担任と

の連絡を常に行えるブログの存在を喜んでいて、先の見えない事態にはなったが、学習動画配信によるスマホでの授業で子どもたちは学校そして担任とつながることができた。本実践の一番大きな目的は、まだ学校そして学級という集団に属したばかりの、いわゆる「小1プロブレ」を抱える1年生に対して、休校の間にも何とか学習習慣を確立させ、解除後の授業に混乱を来さないことであった。

本実践の最大の特長は担任からの発信を保護者がスマホによりブログで受けるということであった。特にアプリの必要も無く、QRコードリーダーで読み込み、お気に入り登録。ブログ更新の際はLINEで知らせる機能もあり、毎日毎時の連絡に適していた。つまり両親のどちらかがスマホを持っていれば確実に連絡が取れ、ブログの内容が確認できるのである。

3. 実践の内容「動画配信」

次に学習動画配信であるが、これはタブレット端末を専用スタンドに設置し、上から15分程度の動画を撮影した。当初はそろばん動画を毎日撮り、これをクラウドに上げ、そのURLをブログに貼り付けた(写真2)。算数の解説、プリントの説明や答え合わせも動画で行い、旧3年生のまとめはこれでいった。

新学期となり、1年生に対しての動画も同様に配信するが、1年生は学習そのものが初めてなので、「椅子の座り方動画」「鉛筆の持ち方動画」から始めた。ひらがなを1画の「く」から始め、その後「し」「へ」「て」と簡単な文字から順に1日に1文字の練習をした。数字も専用ブ



写真2 2020年のブログ

プリントを用意し、1日1枚、示範動画を配信した。その後、国語は「音読動画」「言葉集め動画」「文作り動画」「小さい『つ』動画」「問題練習動画」と教科書通り進めていった。算数も「数図ブロック動画」(写真3)「なんばんめ動画」「いくつといくつ動画」「たして10動画」「『10の歌』動画」などを毎日アップロードした。基本はこれら2教科であったが、生活科で「アサガオ観察記録動画」、図工の「自画像動画」、道徳の「気持ちを考えよう動画」などいくらかでも増やすことができた。もちろん家庭においても4Gを用いた場合のギガを消費することはあるが、Wi-Fi下では追加費用は要らない。送信側・受信側双方で最も導入しやすい手法であった。4月中に3回Zoomを用いてオンライン授業を試みたが、各家庭の環境により兄弟も多く、騒音も多い



写真3 数図ブロックの動きも動画で

ので最終的にはミュートして授業を行った。そうすると決して双方向にはならないので、結果動画配信と同じ事になる。オンライン授業はその場にスマホが無いとできないので現状では(特に1年生では)動画配信の方が確実に効果的であると言える。

4. 動画配信により深まる絆

毎日ほぼ6本分の学習動画配信を行った。ブログには「可能なら9時から国語、10時から算数をしましょう」と書いておき、保護者が自宅にいる家庭では概ねそれを守ってもらえた。つまり、毎日2時間は時刻を決めて時間割通りに学習する習慣をつくることができた。これは狙いにも沿った大きな成果であった。

動画を貼ったブログは必ずその日の0時に予約投稿をすることにしていた。共稼ぎの家庭では深夜に保護者が翌朝の動画をまず見て、どのプリントとどの教材が要るかを把握し、学童に行く子どもの鞆に入れていたという。そして家に帰ってからもう一度動画で復習する形を採る家庭も多かった。また、「行儀は悪いですけど」と断って、朝食時に親子で一緒に動画を見て、だいたいの流れをつかみ、必要物を鞆に詰めてもらい、学童に行く子も

いた。また、土日にまとめて行う家庭もあった。いずれにせよ、学習動画を貼り付けたブログの存在が保護者に安心感を与え、課題を明確化し、その日に行う学習内容を自信を持って確定させたのがとても大きかったようである。学習動画配信は平日と決めているが、ブログの更新は毎日行い、複数回のこともあった。土日は教育に関係ない話題を入れたり、ちょっとした意見を書いたりして閲覧意欲を高めた。ブログにはコメント欄もあるが、基本は「〇〇母見ました」「36.5度元気です」など見たこと、子どもの体調報告にとどめさせている。しかもコメントは非公開にすることで保護者同士の意見交換をすること無く炎上を防ぐことにしている。とは言っても好意的なコメントが多く、それらを名前が分からないようにしながら休日にブログに掲載することで交流を深めている。この部分が「一緒にコロナ禍を乗り越えよう」と絆を強めたことになると思っている(5月末現在でブログ80件投稿、動画170本配信)。

5. 他学級への波及効果、今後に向けて

この取組が校内他教員の知るところとなり、4月中に校内研修を行った。その日のうちに全学年がブログを立ち上げ、同様に動画配信を行うことができた。更新の頻度には差はあるがICTの苦手な教員も毎日撮影、そしてアップロードに勤しんだ。同時に専科教員も学習動画を撮影し、担任に送り、アップするという取組が継続された。第3波の可能性も示唆されている現状で、連絡手段と家庭での学習形態が確立されていることは大きなアドバンテージとなった。多くの保護者がこれを機にタブレット購入を検討したり、スマホからテレビにつなぐケーブルを購入した。これも意識が高まった成果であり、来たるGIGAスクール構想にもすぐに対応できる環境が整う契機にもなった。今後の行く末は分からないが、本実践がウイルスと共存する生活様式を模索する中で学習についての一つの方向性を示す手法であると考えている。

11月現在、毎日登校可能となり、学習動画を制作・アップロードする必要は無いが、保護者への連絡機能としてのブログは必要であると考え、土日も含め毎日更新は継続中である。その件数は260を超え、毎日100件以上のページビューがなされている。